

第4回の報告です！
わたしたちのまちの居場所を考えよう！

市が洞小学校区
地域共生ステーション
づくりワークショップ

通信 04



全4回プログラム

(場所 | 旧長湫南部土地区画整理組合事務所)

第1回 (2/21 (日) 9:30 ~ 11:30)
何のための地域共生ステーション??
～市民主体の多世代居場所づくりとは～

第2回 (3/13 (日) 9:30 ~ 11:30)
こんな地域共生ステーション、つくりたいナ!
～使い方イメージと設計の前提条件を考える～

第3回 (3/27 (日) 9:30 ~ 11:30)
色々な設計案を吟味しよう!
～自分たちが使いやすい空間を考える～

★第4回 (4/17 (日) 9:30 ~ 11:30)
設計案のまとめと運営のあり方
～自分たちで、自分たちの居場所を運営するには～

地域共生ステーションとは、地域で気軽に集い、語らい、地域の様々な課題に対する取組を行うための拠点となる「場」です。小学校区単位の組織であるまちづくり協議会による地域運営をめざしています。4月17日には、市が洞小学校区の地域共生ステーションを皆さんで考えつくっていくためのワークショップ最終回が行われ、成果として基本設計がまとまりました(全4回)。約30名程の多世代の方が集まりました。その様子をお届けします。

● 長久手市暮らし文化部長 高嶋さんよりあいさつ
都市環境と自然環境と社会環境の3つが優れたまちづくりを目指しています。その3つが重なるところに緑を育む場となる市が洞の地域共生ステーションが期待されています。また、ほとぎのさとという古代の歴史ロマンを活かし継承するため展示スペースを設けます。地域住民が主体となった運営を目指してまちづくり協議会の設定準備会も進んでいます。皆さんのご意見で素晴らしいステーションにできよう今日もよろしくお祈いします。



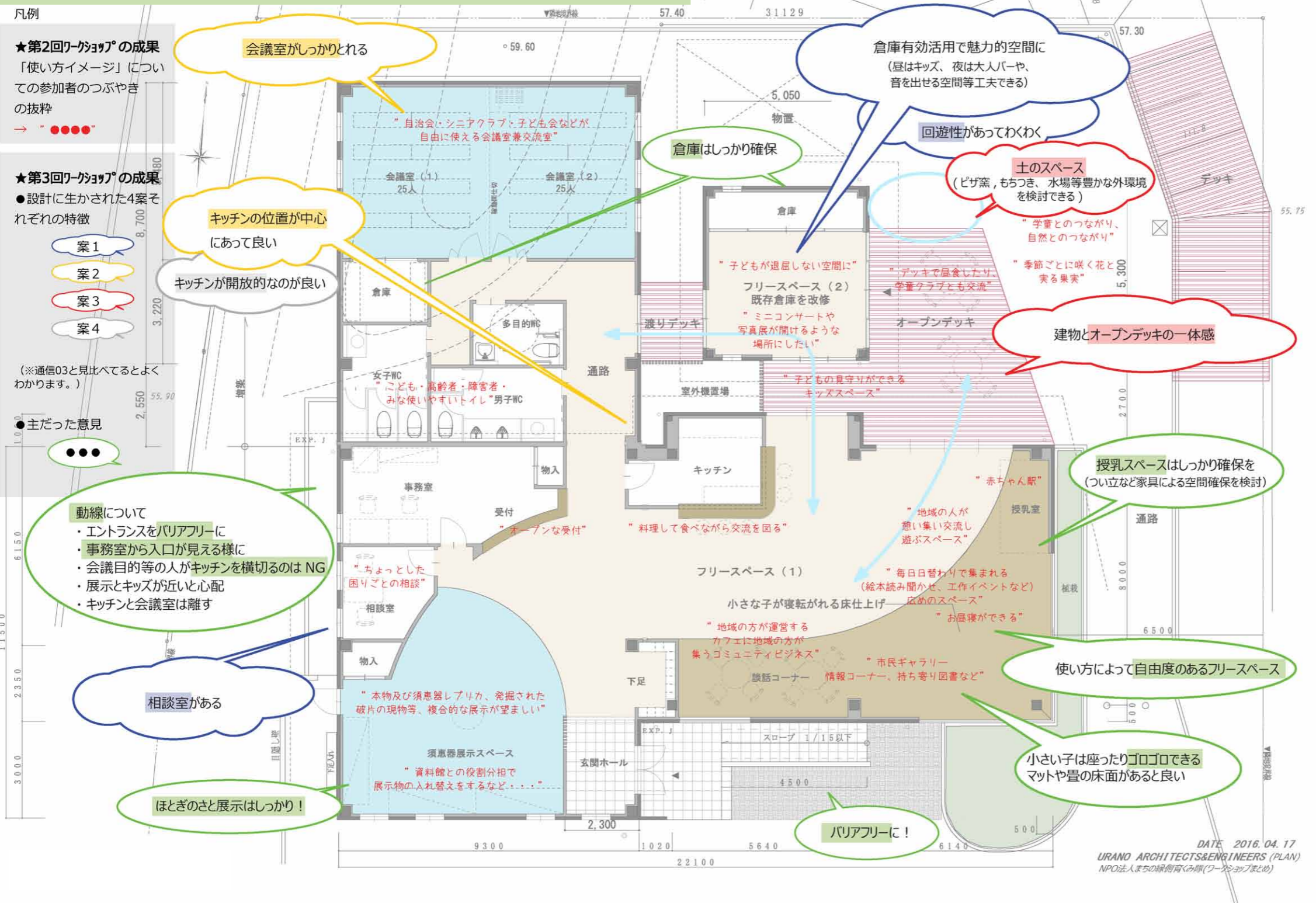
設計案のまとめと運営のあり方～自分で自分たちの居場所を運営するには～

これまでのワークショップの成果として、基本設計案が設計者より提起されました。それに対して、「あともう一步」という空間へのリクエストが寄せられました。今後の実施設計段階において、管理面や予算等の諸条件とあわせて、改善の可能性を検討していきます。また、自分たちで居場所を育むための運営のアイデアも出しました。

空間についてのリクエスト！

- ①事務室の使い方について、まちづくり協議会と自治会連合会が使えるようにできないか？
- ②キッチンオープンな雰囲気にながら、アレルギーの対応は可能か。
- ③会議室を単純な教室形式でなく21世紀型に。
- ④室外機の位置を移動させてデッキを一体的にできないか。
- ⑤玄関とフリースペースを仮想的に仕切り、アレルギーに対応することができないか。
- ⑥オープンデッキに簡易屋根をかけることは可能か。
- ⑦バリアフリーの観点から自動ドアや床材の工夫。
- ⑧外部空間について、駐車場の配置やシンボルツリーなど

基本設計がまとまりました！ ※第4回で提起された基本設計の図面です。



みんなで居場所を育むためのアイデア

- ★オープンまでにやりたいこと
- ①オープニングイベントをみんなで企画し実施する
 - ②PRしよう
 - ・ニュースレターの発信
 - ・改修中はPR期間！看板やSNSで「〇〇やっています！」
 - ・地域のイベントと共にPR
 - ③愛称を一般公募で決めよう
 - ④イベントを通して愛着を育む
 - ・清掃イベント、元気朝市、ラジオ体操、居酒屋イベント
 - ・セルフビルドでピザ窯づくりや、草刈り
 - ・学びの場づくり (歴史、認知症など福祉、炊き出し)
 - ・フリーマーケットやマルシェ
 - ・体育館で実物大模型を作ってみる催し。
 - ⑤ボランティアのしくみづくり
 - ・イベントなどに関わってくれた人がボランティアとして継続的に関わってもらえるようなしくみづくりを
 - ・有償ボランティアのしくみづくりも
 - ⑥運営のルールづくり
 - ・会議室の利用料など
 - ・単純な場所貸だけのスペースにしない
 - ・事前にイベント内容が分かること (特にアレルギーの人との共存)
- ★オープンしてからやりたいこと
- ①イベントを積極的に行う
 - ・物々交換会、子どもイベント、アートイベント、障がい児と地域児童との交流活動
 - ・キッチンを使うイベント
 - ②災害に対応できる居場所
 - ・窯を災害時に活用できるように。
 - ③学びの場づくり
 - ④ボランティア
 - ・ほとぎのさと展示のガイドボランティア
 - ⑤情報コーナーの充実
 - ・各団体のネットワーク
 - ・季節のイベント情報
 - ⑥事業者の営利につながるように
 - ⑦その他
 - ・ランナーのためのエイドステーション

おなじみ！ 延藤せんせいのお話
頭顔要約法によるまとめ



最後に、延藤安弘さん(NPO 法人まちの縁側育くみ隊代表理事)が、これからに向けて今回出てきたつづやきをその場でまとめ、ふりかえりました。

- お** 大きなフリースペースの多様な使い方を！中心はキッチン！
安定的に活用できる会議室と展示室。
- え** ええかげんさも大事！カンペキを目指すな！ゆるやかな使い方を！
- 今後家具の選定などで自由な使い方のできる工夫をしよう
- ち** 緻密な使い方の検討と実施設計を！
- の** のんびり楽しい学びと飲食と多様なつながりを！
- い** イベントと平行して、運営のゆるやかなルールづくりを！
- 災害対応、エリアマップづくり、愛称公募、会議室利用料の検討等
- え** 笑顔と思いやりの分かちあい、事業者の営利活動のあり方、
稼働率の高い施設を目指して
- コミュニティとビジネスのゆるやかな結合
- うん** うんと楽しいことをやれる場と、自治の場として、PRしていこう！
- ワークショップの開催やニュースレターの発行等積極的に

→(逆転の発想が大事！逆さから頭文字を読むと…)

- 運営の知恵** — みなさんの議論で明らかとなった、運営の工夫や、空間の使いこなしなど、「運営の知恵」をまとめました。
今後、実施設計・管理運営の段階でも「自分たちの居場所」としてみなさんで育てていきましょう！

【アンケートより】

1) 本日の回について

- ・ ワークショップの形がとても感性に近いもので自由に、多くの意見を皆さんが出されたと思える
- ・ ”言い残したこと”としてさらに設計・運営案を深めることが出来、建物の完成と実際の利用がとても楽しみに感じています。

2) グループワークについて

- ・ 事業者視点での意見が聞けたこと
- ・ ハード、ソフト両面でたくさんの意見が出た。特に会議室について。
- ・ 空間内での利用方法と役割の中で災害時の情報発信の場所として活用する案

3) 全体発表について

- ・ 自治会連合会の事務所を受付の奥にある事務所となかよく共同という話をされましたが…個人情報や、多くの書類などの保管を考えると…？

- ・ グループ毎に視点が異なる個々の課題から全体への課題への考え方の広がり。実際可能なことは基本設計に盛り込んでほしい。市民によるルール作りは印象に残ります。行政のお膳立てなし。
- ・ 20年後 50年後のまちマスターをつくる
- ・ 自治会連合会の話題が出たこと、市民「主体」で時間をかけて話し合いが進んでほしい、できることがあればお手伝いしたい
- ・ 完成するまでの間の提案が多くあり、この集まりが続くことも期待できました
- ・ ソフト面での立ち上げに課題が多いことを実感した

4) その他

- ・ 最終設計図が出来たらワークショップのメンバーに何らかの方法で知らせてほしい
- ・ やはり4回でこの内容をこなすのは無理があると思います。
- ・ 公設民営における運営の具体案作り

『市が洞地域共生ステーションづくりワークショップ』通信 No.04』

発行日：2016年6月8日

作成：NPO 法人 まちの縁側育くみ隊

問合せ：長久手市暮らし文化部たつせがある課 (TEL: 0561-56-0602 (直通))